

9 組織的調査研究活動推進事業

金城武光

この事業は、活動地域を本部町におき、本部町のカツオ漁業の振興を目的に活動を推進しているが、結果は昭和52年度組織的調査研究活動推進事業報告書（資料編）で報告済みであるので本報告では試験研究上摘出された問題点と解決の方向のみを掲載する。

問 題 点	解 決 の 方 向
1. カツオ餌料魚の出現量は、年別、時季別に変動があり、供給不安定であると同時に絶対量が不足しているので、積極的なエサ資源の増殖方法の検討と併せて餌料魚の季節的な分布、移動、生態、および資源量等の解明を行なう必要がある。	既存資料の整理、カツオ餌料用人工魚礁調査、エサ魚礁造成等に対応していきたい。
2. 餌料魚の種類によって、活力に強弱があるが、弱い種類については、蓄養することによって活力を強くする方法はないか。	県単事業のカツオ餌料蓄養試験で本格的に試験する。
3. カツオ回遊状況の通報	調査船図南丸のカツオ漁場調査中に電報による通報を行う。
4. 黒潮流軸の変動の報告	漁海況予報事業で年6回実施す。沖合定線調査結果を速報で通報すると共にその他関係機関の海況資料を入手次第とりまとめて通報する。